



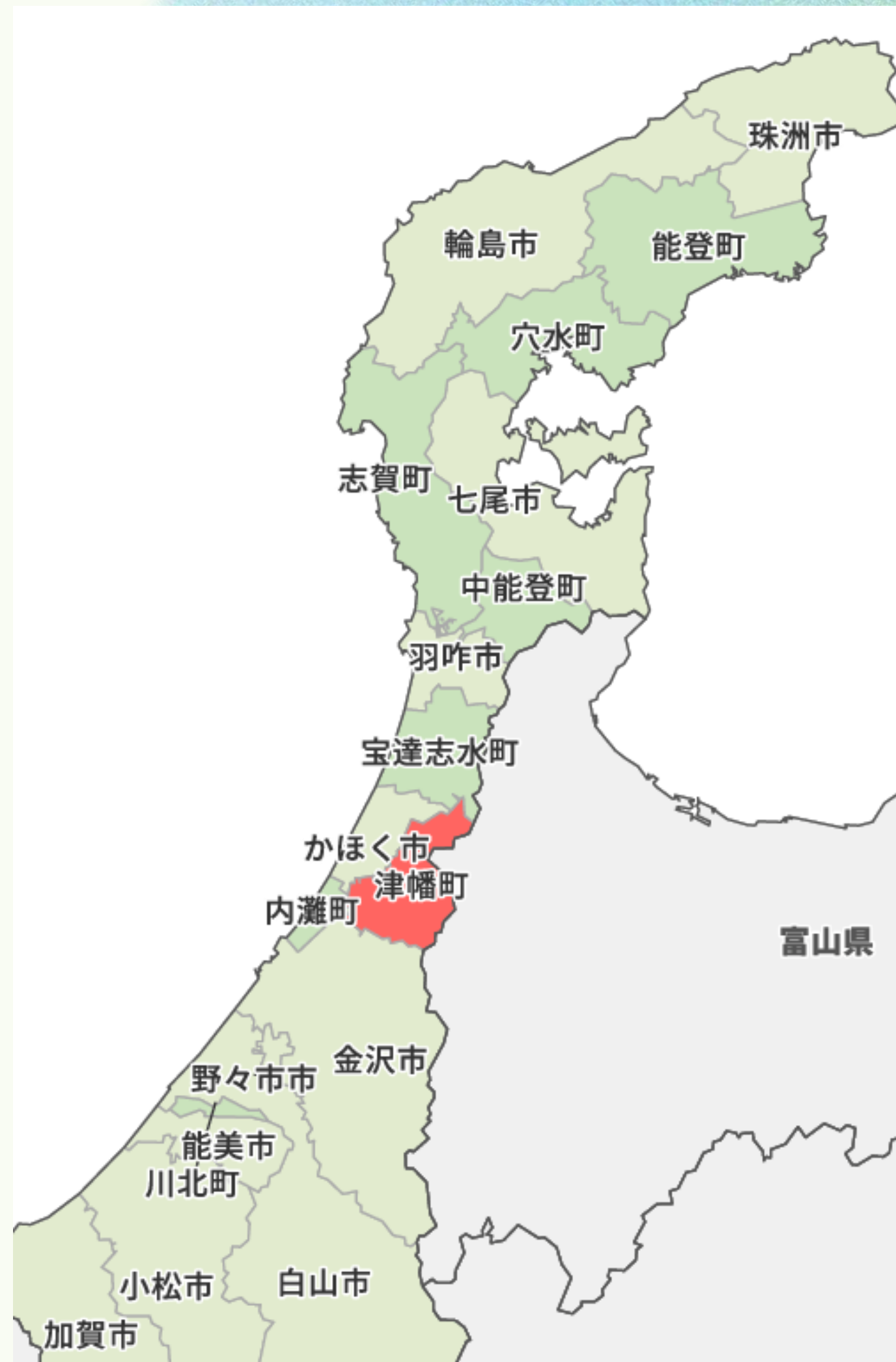
昨年度 地域づくり加速化事業に 参加した自治体からの事例発表

津幡町健康福祉部福祉課
地域包括支援センター
亀本 美紀代

津幡町の概要



- 人口 37,484人（令和7年4月1日現在）
- 面積 110.59km²
- 高齢化率 26.0%
- 地域包括支援センター 直営1か所



事業活用の きっかけ

認知症施策担当として

以前から担当内でテーマになっていた

「チームオレンジ」の整備をどうする？

津幡町のチームオレンジって

どう考えたらいいんだろう？という悩みがあった。

8月1日 事業の オリエンテーション



アドバイザー

チームオレンジにこだわる
必要はない。
個別の支援から
取り組みを考えたらいいんだよ。

8月21日

0.5次ミーティング

認知症施策を協議する場
＝地域包括ケア推進協議会 認知症部会



アドバイザー

どのようにしたら津幡町で認知症になっても安心して暮らせるかということを考えていくとイメージしやすい。一番近道は、当事者本人に聞いてみること。当事者の声を集めて部会メンバーで共有してはどうか

9月9日 1回目 支援

【参集者】認知症部会メンバー等 24名
社協、リハ職、区長、民生児童委員、シニアクラブ、介護者家族
キャラバンメイト、介護者交流会・認知症カフェ担い手、ケアマネジャー

- ①町の現状・課題
- ②自分の思いをみんなで共有
- ③講話(事例紹介と認知症施策の進め方)
- ④認知症の方の思い 町から事例紹介
- ⑤グループディスカッション

認知症にやさしい町つばたとは…
認知症になった方を支えるというより
➡ 本人がどうしたいか
➡ 本人視点を大切にする



10月9日

1.5次ミーティング



厚生局

町担当者の意識が、認知症施策を事業と捉えていたが
アドバイザーの話で、本人の視点を大事にすれば必要な
施策につながっていくという考えに変わっていったね。

11月12日

2回目

支援

【参集者】認知症部会メンバー等 27名

社協、リハ職、区長、民生児童委員、シニアクラブ、警察

キャラバンメイト、介護者交流会・認知症カフェ担い手、ケアマネジャー

●事例報告を全員で聞く

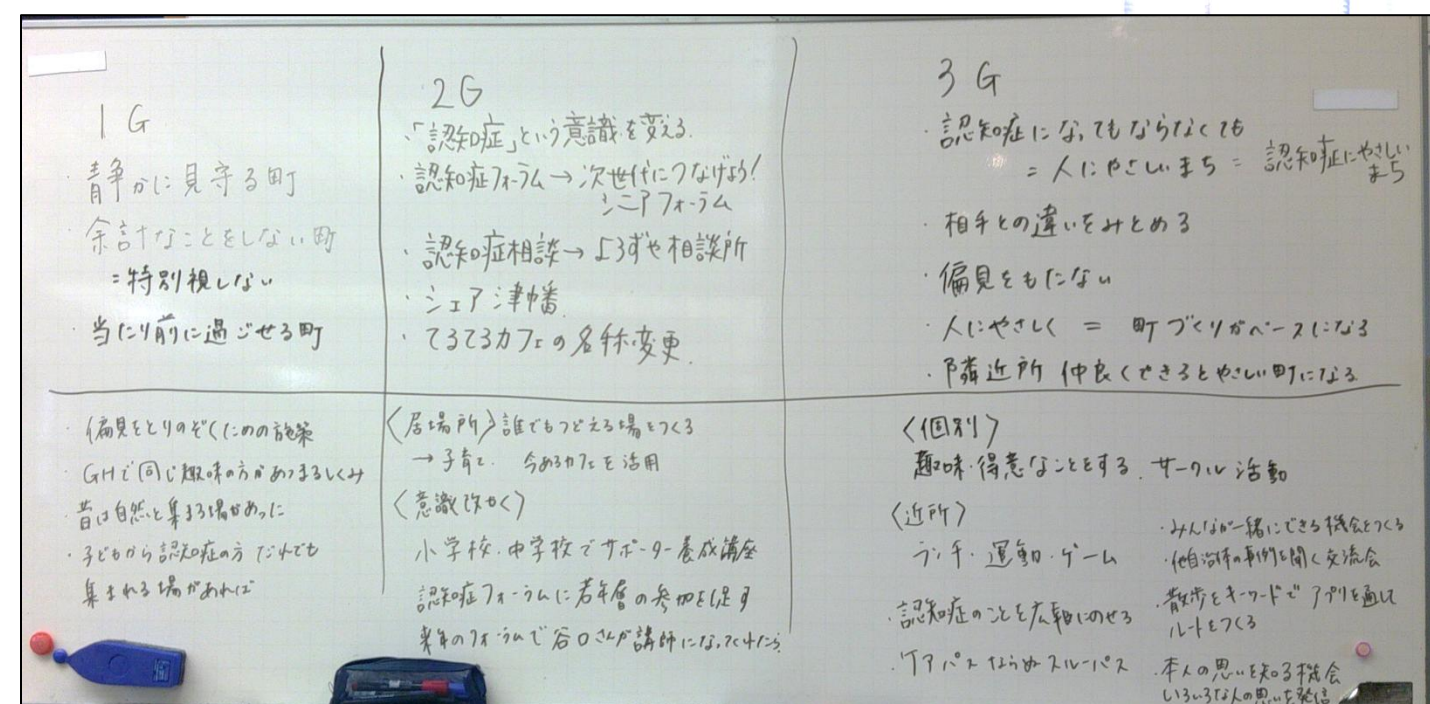
●グループディスカッション

『認知症にやさしい町つばた』とはどのようなことが優しいのか
どのような町になるとよいのか

特別視しない
当たり前に過ごせる町

相手との違いを
認められる

認知症にやさしい
＝人にやさしい町



12月18日

2.5次ミーティング

3回目は、理念など何か形として残せるものがあるといいのでは
せっかくできたこのチームメンバーで、来年度以降も
ディスカッションを継続できるとよいのでは…



県担当者

1月27日 3回目 支援

【参集者】認知症部会メンバー等 25名
社協、リハ職、区長、民生児童委員、シニアクラブ、警察、社会福祉士
キャラバンメイト、介護者交流会・認知症カフェ担い手、ケアマネジャー

- 町から基本指針(案)を提示
- グループディスカッション
基本指針(案)に対しての意見
基本指針(案)に沿った具体的取り組みを考える



意思決定の基本的な考え方

1. 自分の暮らし方、生き方の中で何を選択するかは、自分で決定する。
誰と一緒に過ごしたいか、何をして過ごしたいか、何を優先したいかは自分が決める。
2. 得意、不得意はそれぞれにあり、お互い得意なことをして自分の居場所を見つければいい。
3. 支援に正解・不正解はない。本人が幸せと感じられるものであればよい。

目指すところ

取り組み

1. わたしの**思い**を**伝えられる**
活かせる

- ① 思いを聴く場づくり
- ② 思いを活かした仕組みづくり

2. わたし・わたしたちの
居場所・仲間を**見つける**
つくる

- ① 役割や安心して居られる場づくり
（家庭や地域、医療・介護の場等
どの場面でも）
- ② 認知症の人同士が出会える場
づくり

3. わたしの**選択**が **できる**

- ① わたしに必要なサポートの
選択肢があること（情報発信）
- ② 暮らし方や生き方の選択ができる
こと（意思の決定）

成果

協議の場である認知症部会の方向性が明確になり
頼れる仲間が増え、一緒に取り組んでいけるチーム
づくりができた



地域包括 支援セン ター内で



センター長

基本指針って、認知症だけじゃない。
地域包括ケア推進において、すべてに言える
ことだね。
町民向けの研修では、本人の意思決定を大切に
してきたという点では、認知症フォーラムも
医療介護フォーラムも伝えたいことは同じ



今年は、『まるっとフォーラム』と題してやってみよう！

令和7年度 認知症部会

地域包括ケア推進協議会

2年任期の改選

認知症部会

医療介護連携部会

介護予防部会

権利擁護部会

生活支援連絡会

認知症部会メンバー
15名 ➡ 22名へ

認知症サポート医
グループホーム、社協
ケアマネジャー、リハビリ職
認知症疾患医療センター
社会福祉士、区長、警察
民生児童委員、シニアクラブ
キャラバンメイト、介護者家族
若年性認知症の支援者
認知症カフェ担い手
認知症初期集中支援チーム員



認知症部会 のいろんな声



本人の納得がないまま入居してしまった
利用者さん…
いつまでも、ここで暮らすという思いに
なれない。

グループホーム職員

デイサービスの利用者さん
おたよりに「自分の写真が載っていない！」
家族の意向で、掲載を希望していないが
本人は希望しているのに…。

キャラバンメイト

認知症部会 のいろんな声



家族だからといって
なんでも言えるわけではない。
お互いに言いにくいことがある。

介護者家族

近所や友人だからこそ
本人の話、家族の話を聞けることがある。

シニアクラブ

認知症部会 のいろんな声



病院では、リハビリで関わる中で
本人の思いを聴くことが多いのに
病院内でつなぐことができていない。

病院リハビリ職

電子カルテの付箋の機能を使って
スタッフ全員の目に付くようにしてみよう！

部会での 気づき



本人は、なにかしら意思を表出しているのに
周囲が気づかない、くみ取っていないことが
ありそう。



- 本人の声を聴く取り組みをしてみよう。
- まるっとフォーラムのテーマにしてみよう。

まとめ



小さな話し合い
ちょっとした声を拾うことを
重ねていくことで
少しの変化を作っていくこと

